

ガンバリの力を育てる

遊びと素材



(その三 空カン)

清水エミ子

〈義彦君の空カンあそび〉

子どもたちのガンバル力があの小さな体の中のどこにひそんでいるのだろうか、としみじみひとりひとりの子どもをみなおしてしまつたほどビー玉と糸まきの素材でのあそびは、つきることなく子どもたちをガンバラせ、くりかえさせてくれたのだ。

ビー玉と糸まき、この二種類の素材は全く質のちがう素材である。この質のちがいが子どもたちのガンバル力をいろいろと変え、引き出してくれることを体験したのである。素材の持っているそれぞれの性質がいろいろの型で子どもたちをしげきし、誘発してくれる。そして子どもたちの体の中のいろいろの力をたしかめさせてくれるのだ。そこで今度はどんな家庭にもある、どんな子も手でふれ、目で見たことのある空カンを子どもたちに与えてみることにし

たのである。

空カン集め

ビー玉や糸まきと同じように子どもたちの知らない間に保育室に環境としておいておくことをねらい、四月から卒園児の保護者になのみ空カンをためてもって来てもらい、切り口をつぶし学級全体でゆっくり遊べるだけの数になるまでたくわえておいた。そして大小種々の空カンが七〇個になった時、子どもたちの前にダンボールに入れて出したのである。

はじめの反応

どの子もすぐ空カンの所に集って来たが、何となくながめている子、指先でさわってみる子、つまみ上げてながめ「これたべたよ。

これすぎだよ」とか「アッ、サクランボのカンズメだ」などと言いながら机の上にならべだす子がポツポツといった程度の反応で、ピ―玉や糸まきのように無条件でだれもが飛びついていくという反応はみられなく、何となく取りつきにくかったようだが、これも時間の問題だった。

遊びはじめ

●レットルをながめる。

フラックと空カンの前に立ちどまって空カンを持ち上げ、ひとつひとつレットルをながめて、くびをすくめたり、なでたりして、またもとにもどしてその場をはなれていく子。

好きなもの順にならべ、だれも空カンのまわりにはないのをみきわめ、そっと近より、レットルをひとつひとつながめ、種類のちがうものを机の上にえらび出し、いろいろ順番を入れかえながらならべていく。

「これはモモか、これはミカンの次だな」など言いながら自分の好きなものの順にならべているのである。こんなあそびを好む子どもたちは内気な男女児たちで、何となく集って来てはくり返し遊んでいったようである。

こんな単純なくり返しが内気で静かな遊びを好む子たちに適していることをもう一度あらためて認識させられた。

空カンだけの遊び

●空カンの階段

好きな順にならべる遊びを自分でやったり友だちのをききながらならべてくらべ合ったりしていた義彦が、「あれ、あんたのミカンのカンはばくのミカンのカンより小さいね。それからモモのカンズメも、こういうのと、こういうのがあって、大きいのが小さいのがあるね」と新しい発見におどろき、同種類の空カンをまとめて机の上においたのだ。その時いっしょにカンをいじっていた英俊が「ほらみてごらんカンの階段ができてるじゃない。義彦くん」と義彦の肩をたたいて大発見をしたようによろこんでいる。これに気付いた義彦は同種類のカンで階段を作る。カンの大小を組合わせて階段を作るなどをやりはじめたが、カンの大きさの種類は四種類位のためみじかい階段しか作ることができなかった。義彦は「ちがう大きいのカンないかな」とタンボールの中をかきまわしたが思うようなのは出てこない。しばらくおでこをなでまわしながら思索していたが「そうだ、いいことがある」と顔をほころばせ、手を打ってから「ほらこうやって小さいのと大きいのと、いろんなふうにかさねれば長いのが高いのの階段ができるよ」と夢中で空カンをかさねていくのだった。このいきおいに近くにいた春美も、はねかえされたように「ほんとだ。あたしも作ろう」と今まであまり交わることのなかった同士が「このふといのだめだ。あんたの方にこのふといのあ

る。ちょうだい」といったぐあいだ、だれよりも仲良しのようになぞぶことができた。そしておとなには思いもよらない高さ、長さの階段が作られたのである。このあそびで義彦と春美のふたりは、

・いろいろの大きさのちがいを知った。(高さ、ふとさ)

・いろいろの大きさの組合せでいろいろな高さができる。

・同じふとさの円筒形をかさねていく時のむずかしさと、しんちようさ。

・重ね積みをしていく時の安定の取り方などを遊びながら身につけていったのである。この二人はあまり口数多く話し合わなかったが「あれっ、下の方がふとくつても上の方が長すぎるとひっくりかえっちゃうよ」などとひとりごとしながらいろいろと組合せてはくずれ、重ねてはやりなおし、くりかえし遊んでいた。

●空カンの上を歩く

二組の階段をとりあわせて作った義彦は、ひとりてくびをすくめ、にっこり笑ってから上ぐつをぬいで空カンの上をよつばいになってあるき出し、段々をのぼりはじめたのだ。が、手は上手にカンの上をのぼっていきが足は積んだカンをすぐにくずしてしまう。二、三回足でくずした階段をなおして、やりなおしをしていたが思うようにのぼれない。そばでみていた正光が「よっちゃんカンがくつついてるからよ」と言う。それをきいて義彦は「そうか、そんならこつやろう」と階段をくずし、ただ二列にならべその上をよつばいになってわたってあるいた。「家はこういうげいとうやるよ」と義彦は両

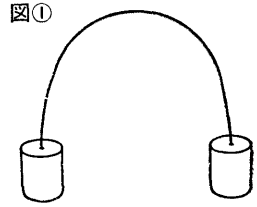
手にカンをにぎっては次々にわたり歩き「家のきょくげい」と室の中をあつちへならべ、こつちへならべしてあるいたのだ。次の日義彦は登園するとすぐ画用紙に象や馬の絵を描きはじめた。そして「これお面にするんだよ」と夢中で切り抜き、お面にしそれを机の上におくと、同じ大きさの空カンを二個両手にぎって持ってきた。

まず象のお面をかぶり室の中をのっそりのっそりカンを両手ににぎり、おしりをもち上げて歩きまわり、ひとめぐりして馬のお面と交代する。この遊びをやりながら義彦は「こは動物の幼稚園ね」と近くにいる女の子によびかけ「ほんものみたいな音でしょう。カンの音」などと言ってよろこびを現わし、「カンズメってずい分いいな。たべるでしょ。それから遊ぶの」と言って大声で笑うのだ。

●カンの下駄

次の朝義彦は私のそばにやって来て言いくそうにもじもじしている。「なあに」と声をかけると「先生、カンに穴あけていい」「ええ手を切らないようにね」「だいじょうぶくぎであけるんだもの」と言いながらくぎと金づちの戸棚に向かっていた。

しばらくすると「先生、じょうぶなひも、ちょうだい」と義彦が空カンを手に持ってやって来た。私からひもを受け取るとすぐその場でカンの穴にひもを通した。しかし、どうやって一つの穴に通したひもを止めてよいかこまってしまう、カンのその穴からひもを出しぐるっと外にまわしてゆわえたり、カンのまわりをぐるっと一回巻いて穴に通したりしている。おとなには考えも及ばない、ややく



しい結び方をしたり、通したりしたのだ。そして「おかしいな、お父ちゃんきのう、カンの下駄っておもしろいよ。お父ちゃんも子どもの時したっていったけど、穴を一こあけてひもを通すんだっていったけど一個の穴じゃぬけちゃうよ」とくびをかしげてこまっている。

そこで私が割箸をゆわえつけてぬけないようにしてあげる(図①)と、かんしんしたように私の顔を見上げていた。そして、カンの上にハダシであがり指の間にひもをはさみ、ひもの上の方を持ってカンで歩くのだ。ひもを上手にあやつり、足もそれに調和させてもちあげないとひっくり返ってしまう。(竹馬と同じ)「カンの下駄いいでしょう」と義彦はのっかっては歩き、落ちては乗りして保育室をしんげんにカンの下駄で歩き回った。

この遊びは三、四人がまねて作り出したが、他の者はでき上ったカン下駄を交代ではいて遊んでいた。「カップポ、カップポいうね、おもしろい音だ」「馬みたいだね」と友達と義彦は降園のしたくの後までもカン下駄をはいて歩いていった。

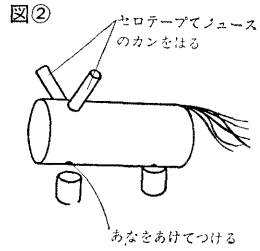
義彦は昨日父親に空カンで遊んだ話をし、父親からカン下駄をおそわって来た。義彦は父親の子どもの時代を思い浮かべながらカン下駄をはいたにちがいない。くす屋さんにわたしてつぶされてしまうような空カンが父親と子どもとの交わりをふかめ、関係も良くしてくれたのだと思うと私は空カンが入っているタンホールに近寄り空

カンをながめ、そのひとつひとつにひそんでいる力を思ってみた。こんな時、義彦が「先生、カン下駄家にもっていったよ」と言ってきたので我にかえった。お父さんに見せていっしょにはいてみたいのだ。そして明日また持って来ることを約束して持ち帰ることをゆるした。

●動物作り

義彦はかかえ切れないほどの大小の空カンを胸の所にかかえ、机の上に置くと大声で「これとらないでね。僕何か作るんだから」とどなつてからセロテープを取りにいった。それから二〇分後私は室に入ってみて驚いた。大小の空カンを組合せていろいろな動物が作ってあったからだ。

大きな坩ボンドのカンを胴に坩ボンドのを顔にうすべったいサバヤサンマのカンを足にした兎や、足を長くかさねたり、くびを長くした馬だのが四、五匹作られていた。そしてその動物に適したレットルのはつてあるカンをつかっていたのだ。義彦は象の鼻を作ろうとカンをセロテープでつなげて胴につけるが、重くてはがれたり、ひっくりかえったりするので象をあきらめ、犬や馬や兎を作り、机の上を動かしながら遊んでいた。この遊びは四、五名が入れかわり立ちかわり手を出したり、まねて作ったりしたが義彦とあと四、五名のほかは長つづきしなかった。私が見ているのに気付いた義彦は「先生、カンはずくセロテープはかけられちゃうね。ずく力入れてはらな」とためたよ」と苦心のほどを知らせてくれたのだ。この話をそば



できいていた正光は「そうか、そんならぼくも、もっと力入れてはればよかったんだ」とあらためて気づき、くやしそうにしていた。そして正光が義彦に「象の鼻絵をかく紙（画用紙）でつくって、つけてば。それからさ、足だつてくぎで穴あけてひもでゆわけばいいよ。きみ先生

にきいてみな」と提案した。そして義彦が私に穴をあけてもよいか聞きに來たので、三つ、四つなら良いと答えると、よろこんで正光はかんたんだが、よこはらにあげる穴はむずかしく、思うようにいかなかつた。そして義彦はカンのそこも切りぬき、カンのつつが作りたいから切ってくれと言つて來た。三個だけ切り取るとそれを胴にして足をゆわえていたのだ。「正光くん、ほらほんものみたいに足がブラブラするようになったよねえー」「すごい、やっと成功したよ、すごい分たいへんだつたよねえー」とうれしそうだ。(図②)

●カン作り

庭からかけこんで來た女兒が床にころがっていた三、四個のカンにつまずいた。カンがガランゴロンと音を立ててころがった。つまずいた女兒はもとより室にいた一〇名近くの子どもたちがいっせいに音のする方にふり向いた。「すごいなあー」「どうしたの」「いけな

ながら「いろんな音がまぎつてたね。やっちゃんもきこえたでしょう」と言いながら床にころがっているカンをひろいあげた。「これとこれはおんなじ音かな。大きいのと小さいのじゃちがう音だな」と珍ボンドのカンをそとけてみた、「こんな音はなかったみたい」と考えこむと近くでみていた清が「義ちゃんカンとカンがぶつかったり、とびはねたりしたからじゃない」と言いながら床にカンをおきカンをけてぶつけてみた。カランコロンと音がしたのだ。

「ほんとだ、清ちゃんよくわかつたね。いろんなカンからいろんな音がでるんだね」と言いながらダンボールからカンを出してはけり、出してはけりのはじまつた。これは室にいた男女兒の大半がキヤーキヤーいいながらけり合ひぶつつけ合つた。義彦はけつたりぶつたりしながら、「ちがうカンにぶつける時のカンの音はへんな音で「カスン」というよ。一個のカンが下の木（床）をびよんびよんはねた時の音はおんがくみたいだし、うたみたいだ」
○いろんなひとといっしょに、いちにのさんでけると、がくたいの時みたいいろいろな音がする。

○つよくけとばすとへんな音がするし、へっこんじゃう。
などをくりかえしてためしているうちに発見したのだ。そして友だちに「そつとけとばしなね」などと教えている。

こんな遊びを二〇分もつづけた義彦の所に康弘がやって來て「よっちゃんカンけり鬼やろうぜ」ときそつたのだ。康弘は近くにいた男女兒をかき集めゲームの説明をはじめた。「シャンケンでまけた

人が鬼で、鬼はじん地にカンをおいてそのカンをけるの。そして「カンケッタ」って言うのね。にげる人は鬼がける時いそいでにげて、けったっていった時止まるの。鬼はじん地から手をのばしてつかまえるの。つかまった人が今度は鬼になるの」と言うのだ。

このゲームは皆がよろこんで参加し、一週間位毎日くり返された。

○「けった」と言っても遠くに逃げていってしまふ子を皆で「ほんそくここだったよ」とたしなめたり

○「じんちに足の先を入れて地面に手を付いてつかまえなよ」などちえの交換がみられたのだ。

○けろうと思つてすぐ言うとかまるよ。

○ゆっくりけつてから言うとおみんなとおくまでにげちゃうね。

この遊びもやつてはためし、ためしてはやるというくり返しの効果がみられたのだ。

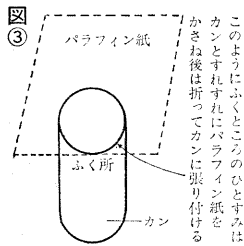
●カンのふえ

義彦はこの日登園の途中でハンカチを買つてもらつた。室に入つて来るとハンカチの入つていたビニールの袋に息を入れてふくらましたり、つぶしたりしていた。が勝明が空カンを積んで遊んでいるのを見つけて近よつた。そして、そばにあつたうすいカンをひろい上げ持つていたビニールの袋をかぶせた。そしてフーツとイキをふき込んだり出したりしていた。何回かくり返しているうちに吹き方によつてフーツと音を立てる時がある。「アツなつたぞ」と義彦は

音を出すのに一生懸命になつた。

そこで私はパラフィン紙をそつとわたしてみたのだ。義彦はふしぎそうに受け取つて私の顔をのぞきこんでいた。が私はやり方の指示はせずにその場をはなれた。そして義彦がビニールの代りに空カンにパラフィン紙を張ることをみつけてくれることを心に祈つたのだ。「がんばれよっちゃん。くり返してやつてごらん」と声がかけた。しばらくホカンとしていた義彦もやつと気づき、ビニールの袋をはずしパラフィン紙をかぶせて吹いてみた。フーツと少しなるとすぐならなくなる。近よつて来た裕一が「義ちゃんビンとしないどめよ」と教えた。そして裕一は手でパラフィン紙をのぼしておさえ「吹いてみな」と言つた。義彦が吹くとビープとたいへんひびいた。口をはなすのも忘れ義彦が「なつたね」と言う。「なつたね」と言葉がひびけたのだ。ふたりは顔を見合せうれしそうに笑つた。

裕一もパラフィン紙をもらいに来た。ふたりはおさえ合つてパラフィン紙をカンにビンと張りセロテープでしっかりとおさえた。そしてビープ、ビープと吹いた。これを見た他の子もパラフィン紙をもらいに来てまねたのだ。竹内はビンと張つたパラフィン紙のまん中をハサミでつつついで穴をあけ、そこに口を上からあてて吹いて見るのだ



がどうしてもブーという音が出ない。首をかしげてパラフィンをはずし、もう一枚もらいに来た。そして又やりなおしてみたがやっぱり音がでない。「チキシヨウ」とくやしがつたのでその声をきいて義彦が近より「こうやるんだよ」とみせた。じっとみくらべていた竹内は「そうか吹く所は、はじっこにしとくんだな」と言つて「よしわかった」ともう一枚パラフィン紙をもらつて作りなおした。そして四、五名ずつかたまつて、むすんでひらいてや園であうたうたやテレビのコマーシャルを吹いてあるいたのだ。

○ピンとはらないと音が出ない。

○まん中に穴をあけてもならないね。

○ぎゅっと吹いても音がとまっちゃう。

○つばきでぬれると音が出ない。

○紙が息でゆれて音がでるんだね。

○ビニールよりパラフィン紙の方がかるい音ができる。

○ふくところはかぶせないでカンとスレスレにパラフィン紙をはらないとならない。

などを発見し体験することができたのだ。

●はんこあそび

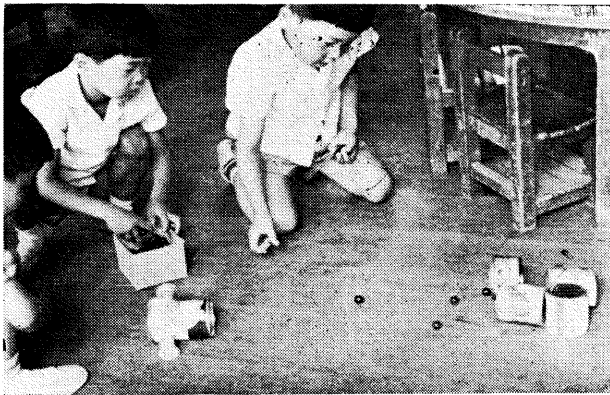
義彦はえのぐ絵を書いたあと、そつと絵筆にえのぐをしみこませ空カンの底にえのぐをぬり画用紙におした。大小の空カンにいろいろな色をぬつてはハンコ遊びをした。円のきれいな模様が画面いっぱいになると「すごーくきれいだ」と言いながらみんなに見せてあ

るいた。一〇数名がまねてハンコ遊びをしたのだ。

空カンとビー玉での遊び

●ビー玉のほら穴

義彦は室を広くして床の所々に大小種々のカンを横にねかしておき、一定の場所か



らビー玉をころがし入れる。義彦はビー玉を一度に二〇〜三〇個ころがし、ほうぼうにちらばりころがるのをながめ「それ敵がせて来るから早くかくれがにかくれろ」と言いながら次々にビー玉をころがす。「ほら穴に逃げ込みました」など、このひとり遊びは次々に仲間がふえ、春

美や勝明も参加してビー玉と空カンが室中にころがった。積木でカンが動かないようにしたり、横に二、三個ならべて、よく入り込むようにしたり、三、四名でちえを出し合って色々なかくれがが作られたのだ。(写真①)

○同じ大きさのビー玉なのにカンにぶつかった時の音はいろいろだね。

○大きいカンと小さいカンじゃ音がちがうね。

○いっぺんにいくつもぶつかるると音楽みたいでいい音だね。

などとカンの性質をたしかめながら遊んだのだ。

●カンズメやさん(ままごと)

義彦は空カンの中にビー玉を入れ机の上にならべ「カンズメやさん、カンズメ」と室中にさげんだ。三、四名の女児が「くださいな」とすぐそれに答えて来た。「くだものですか、きかなですか、サンマにそれから……」と義彦もカンズメ屋になりきっている。カンにビー玉を入れたり出したりしてカンズメ作りをしては売っていた。ビー玉のカンズメを買った女児はすぐその足でママゴトコーナーに入り「さあ、モモをたべましょう」とか「さんまのカンズメでごはんですよ」とママゴトがはじまった。

義彦は画用紙に魚の絵やくだもの絵をカンズメのレッテルを見ながら描き、机の横にぶらさげ「今日は売り出すで、大安売り」と言いながら大きいカンと小さいカンを組合せ「これで一〇〇円、やすいでしょ」と大張り切り。牛乳のフタがいつのまにかお金にな

って売ったりかったり、たべたり、がなされたのだ。

●かいだんおりましたよ

空カンをかきにおいて階段を作った義彦はその上にビー玉をひとつずつころかしてみた。ビー玉はポトンポトンとリズムカルな音を立ててころがったりポトンとひとつだけでわきに落ちたりする。これをやってみて義彦は「かいだんおりましたよ」とくちずさんでいた。

○あんまり高くからころがすとポトンと大きい音がするけどすぐおっこちちゃう。

○そっところがすと下までおけるけど、とっても早くポトポトっていって「ン」がなしでおりちゃうね。

○力入れて上からおとすとビー玉がはずむね。ハントしてからころがるからおっこちちゃう、と首をかしげながら、くりかえし首をすくめて成功をよるこんでいた。

この遊びはビー玉の好きな鉄也や昇も加わり一週間位くりかえし遊ばれた。

○まがった(カーブ)階段はどうしてもころがらなくて、おっこちちゃう、と言ひ積木のかこいが出来たりしたが、どうとう曲った階段は成功しなかった。

●ハネビー玉

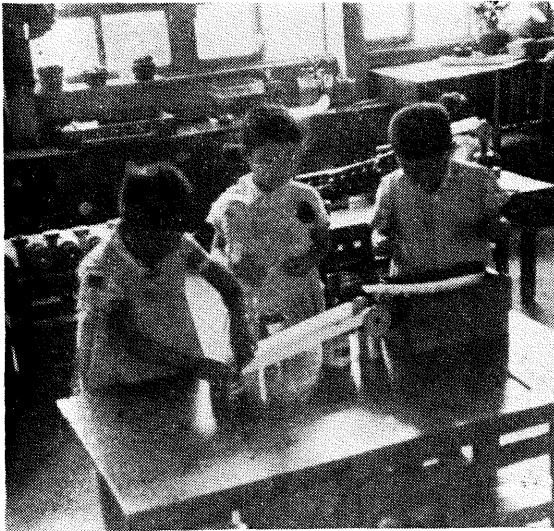
階段ころがして経験したビー玉のバウンドをくりかえし、たしかめている。カンを並べておき、上からビー玉をおとしバウンドさせ

②



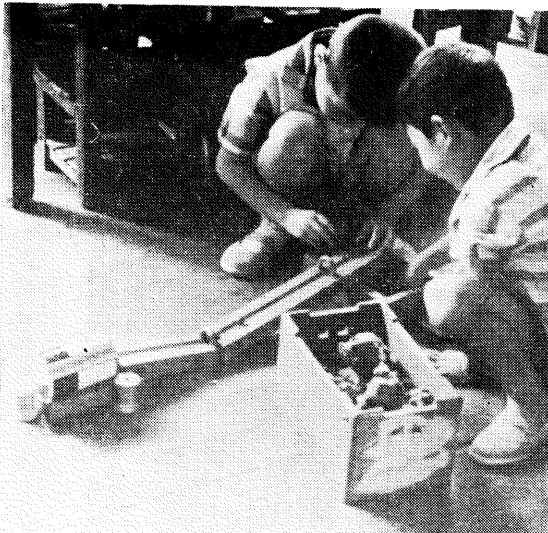
て、となりのカンに入れるという遊びを考えたのだ。
 ○力を入れてビー玉をたたきつ
 けパウンドさせ

たり、高い所やひくい所からおとしたりしてくり返しているうちに、近くで見えていた竹内がそっとカンを積み重ね、パウンドして落ちるビー玉が下のカンに入るようにカンを重ね「こうやればいいでしょう。やってみな」と下から義彦を見上げた。(写真②)
 義彦は「おもしろい、びよんびよこビー玉のマリみたいにはずむね」と言い「こんど竹内君やれば」としぜんに交代して遊ばれた。
 ○小さいカンの方がよくはずむ。



③ ↑

④ ↓



○大きいカンドと中の方でホッホッっていうだけ。
 ○雨みたいにいっぺんにおとすと、たくさんはずむけどひとつずつやるとはずみにくい。
 など五、六名ずつかたまって遊ばれた。
 ●ビー玉受けや
 坂の台
 画用紙や積木の坂をころがし坂の先のビー玉受けにカンを付けたり坂の高さの台にした

りしたのだ。

○ビー玉受けは坂が急だし大きいカンじゃないとビー玉が出てしま
う。

○坂がひくいとうすいカンでもそっと入る。

○積木の坂より画用紙の坂の方がカンによく入る。

○カンの台の方が積木よりいろいろな坂ができる。(写真③④)

● ケーキやさん

女兒が三、四人集ってカンをさかさにし底にセロテーフでビー玉
をはりつけているのだ、そして「これは五〇〇円がいいわ」とか
「これはビー玉いっぱいつけて一〇〇〇円にするわ」など夢中にな
ってビー玉をはりつけている。

「ケーキやさんに、だれがなるの」と徳子が言うのと、そばで見えて
いた義彦は「ぼくやりたいな。ぼくも二個位つくらしてよ」と大きい
カンに小さくうすいのをかさねその上にビー玉をはりつけた。

中央にかためて三個おき、まわりにバラバラと置いて「ワーきれいな
ケーキだ」と、ほれほれしている。机の上に空カンのケーキをな
らべ「おたんじょうびのケーキですよ」とケーキやがはじまっ
た。女兒は「この子のおたんじょうびのくください。五〇〇円ですか」
とママコトといっしょに合流してたのしくあそばされた。

今まで義彦は女兒といっしょにママコトをすることはあまりな
かったのだ。

空カンと糸巻での遊び

ビー玉を空カンにセロテーフではりつけることを経験した義彦
は、空カンを積木のように重ねてセロテーフではり合せ、何かを作
ろうと目の色をかえて活動していた。自分の目的のためにはり合せ
るのがもどかしそうに、近よる友だちのだれかれかまわず「ちよっ
とおさえてよ」「ちよっともってて」と助けをかりていたのには驚
かされた。また義彦に声をかけられた友だちも電波にあったように
無言で助手をしたり手つだったりしていたのだ。

● ビストルとキカン銃

重ね合せた空カンの下に工業用ミシンの糸巻(8月号使用のもの)
をつけて机の上におこし糸巻をにぎって持ち上げた義彦はニコッと
笑った。そして空カンの上を目にあて「バババババ……」ときかん



銃をうつま
ねをし「ほ
らねできた
よ。うれ
しくてたま
らず皆に見
せてあるい
ては「ババ
ババ……」

⑤

とやっていた。(写真⑤)

うたれた者はろうかにおれ、机にたおれたりして、手のピストルで打ち返している。他の友だちも「義ちゃん見せてよ。ぼくもつくろう」といったぐあい。で学級全体の男児から一時は空カンと糸巻とセロテープですいついてしまったように、シーンとしずまりかえって空カンのピストルやキカン銃作りをした。

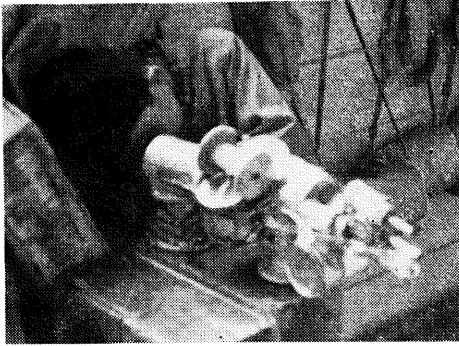
○義彦のようにひとつの経験が次の遊びを育ててくれる。

○ひとつの発案やくりかえしによる発見が他の多くの友達をしげきし、学級全体でひとつの目的に向かって活動できるようになる。

○どんな友だちの問いかけにも自然に答えてしまうという効果がみられた。

●大砲とピストル

義彦はろうかの大積木の上に空カンの鉄砲を乗せ、口の中で何か言いながらセロテープをはがしたりはったりしている。近よると「大砲にするんだ。大砲のほうがいいや



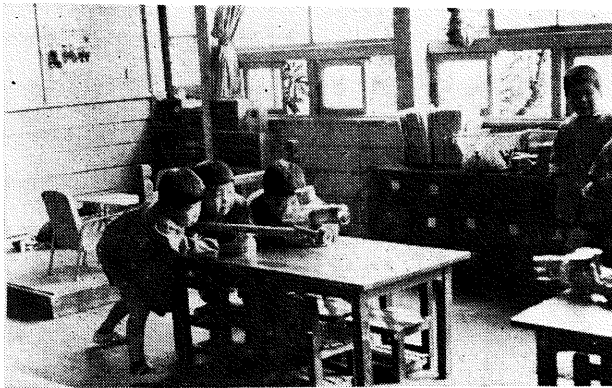
っつけられるもの」といいながら、セロテープで糸巻をカンにくっつけている。

○義彦の空カンでの遊びをみていると次の活動がちゃんと予定されているようにスラスラ展開していくのには驚かされた。

○でき上った大砲はバランスよく糸巻と空カンが組み合わされている。(写真⑥)

●長い鉄砲

義彦は大砲を友達にかしてあげ、次に工業用ミシンの糸巻(ボール紙の円筒型)を長くつなぎ、その下に空カンをくっつけて大砲とピストルと打ち合いをはじめた。長い鉄砲の先に小さなカンをつけて、ツツ先にしたりした。このピストルや鉄砲や大砲遊びは卒園す



るまであきることなく、はがしては付けして、くり返し遊ばれた。

でき上っている鉄砲をそつといじって小さな声で「ババン……」

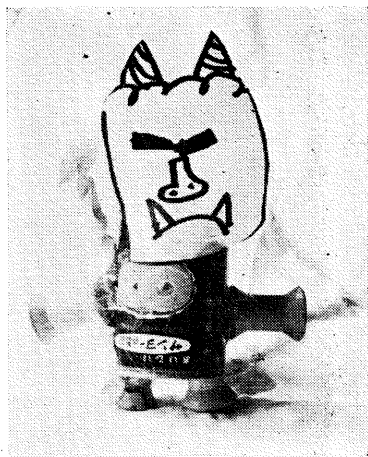
と打つて打つまねをしてみる女の子などがあらわれ、女と男の戦争ごっこも展開された程だった。(写真⑦)

●動物園や人形作り

ピストル遊びが一段落した時、義彦は空カンに糸巻をくつつけ動物を作りはじめた。そして昇や竹内や康弘や鉄也をよんで「みんな動物園作ろうよ」と空カンの入っているダンボールのまわりにこしをおろして活動しはじめた。シッポに小さな糸巻をくつつけてかわいらしい動物ができ思わず笑い出したり、「ちよつとここおさえてキリンにするから」と糸巻をつなげるのを手伝い合ったりして八匹の動物を作った。鉄也の動物が糸巻の足の位置が不安定なためなかなか立たなかった。「チキショウ。まただめだ。おかしいな」と舌打ちしながら全部セロテープをはがしてやりなおしたり「まがるのだめなのよ。だから下にまっすぐおいてはれば」とまわりで見えていた明子の助けをかりてやっと立たた。できた動物を床にならべ積木でさくを作ったり糸巻で門をつけたり、ダイナミックな活動に発展していったのだ。活動がもり上った時は女兒も五名加わり一四名にもなっていた。

○動物園ができると義彦は「そうだ」と画用紙とマジックを持って来て人間の顔を描いて切りぬきカンにはりつけ糸巻で手足をはりつけ人間の大小(おとなや子ども)を作って動物園のまわりになら

⑧



べ「見に来てよ」と友だちとたのしもうに話しかけていた。

これを見ていた裕一は「わる者が入ってこないように、ぼくはオニを作って、門の入口に立てよう」とオニの顔をかいてカンにはり付け、顔を切りぬいたのこりの紙をまるめて金棒を作って、オニに持たせたりした。あまり、こわいオニができたので皆も「わーこんならいいや」と大よろこびをした。(写真⑧)

空カンと子どもたち

空カンの素材にたいする子どもたちの活動を見ていて私はビー玉や糸巻とちがう頑張る力を育ててくれたことと、ビー玉や糸巻とちがうくりかえしをさせてくれたことを強く感じたのだ。今回は学級全体でのくりかえしの活動でなく義彦のくりかえしと頑張りの力を中心に空カンによる活動の展開をながめてみた。

義彦はひとりっ子でわがままのため入園以来あまり友だち遊びが上手でなく、途中で遊びからはみ出てしまいがちの子だった。

○ビー玉糸巻の素材での遊びもよろこんで参加し、他の子より回数多く素材に接していた。

○空カンは他の子より強く興味を示し、ひとつの遊びを何回もくりかえした。

○くり返しているうちに前と同じくり返しでなく、何かちがった発展をさせている。

○前の経験を生かした遊びに発展している。

○今までへただった友だちとの交りが空カンが仲立ちになってスムーズにできるようになり友だちをリードできるようになった。

○創作活動に抵抗を感じ、描いたり作ったりすることをあまり好まなかったのだが、空カン遊びを経験してからは人が変わったように創作活動に熱中するようになった。

○また学級全体もビー玉、糸巻、空カンと三つの素材遊びを経験してからは絵画製作に抵抗を感じる子がいなくなったし、絵画製作をしたのしむ時間（活動のふかまり）が長くなり、ひとつの教材で長い間活動するようになった。

○義彦は活動に失敗するとくり返すことができず、ほうり出してしまっ子だったがビー玉や糸巻を知ってからその失敗をもとに遊びを発展させることを学んだのだ。

私が素材での遊びを経験するまでは一年保育児この時期ではまだ

絵画製作がにがての子が三、四名はいたのだった。今年は学級全体がどんな活動にもどんな教材にも体全体でぶつかっていきけるようになった。学級全体での成長は素材遊びによるくり返しの効果とくり返しによる頑張りの力が身について来た現れといっても過言ではないと、大きな自信をもつことができた。義彦はひとりっ子の特徴を身につけた移り気の子だったが、空カン遊び後はうつり気は全くなくなっていった。

ビー玉、糸巻、空カンと三種類の素材で子どもたちの頑張る力とくり返しを体験し、素材によって子どもから質のちがう失敗と頑張りの力を引き出してくれる事と、質のちがうくり返しと経験をさせてくれることを知らされた。

皆が廃品にしてしまう空カンが、例えば義彦のようにほんのわずかの間に見違えるほど頑張れる子にし、くり返しをよろこぶ子に育ててくれたことを身にしみて感じたばかりか、子どもたちの体の中には細胞の数程も頑張る力とエネルギーが潜んでいることを知ったのだ。そして私たち教師はもっと、もっと子どもたちの力を信じ、子どもたちが持っている力が出せるように、いろいろな素材を子どもとともに、さがし、あたえることの大切さを感じた。

素材によって経験する発展的な失敗とくり返しが子どもたちにねばり強さと頑張りの力を育てるのだ。

（足立区立関屋幼稚園）